

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	岩井 智子	福祉	H2301113
	③	平林 亨子	福祉	H2301072
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	旭小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0003		
	所在地	世田谷区野沢1丁目4番3号		
	TEL	03-3424-1538		
事業所代表者氏名	事務局長 伊津 雅弘			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 8 月 28 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 7 月 2 日			
自己評価結果報告日	2025 年 8 月 28 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 22 日			
評価合議日	2025 年 10 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)放課後の子どもたちに好ましい環境を提供するサービス業 2)旭小新BOPに所属するすべての子どもたちに安全・安心な環境の提供 3)遊びや集団生活を通して好ましい社会性を育成 4)人権尊重の精神を基盤においた子どもたちへの対応を心掛ける 5)集団生活を営む上で必要とされる規律の定着を図る</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷区立旭小学校との連絡・相談などの連携を密にした運営を行うの計画立案に生かしていく</li> <li>・配慮を要する児童への対応も充実させて安全に過ごさせる</li> <li>・年間計画に基づいた活動を行い、実施後は反省点や改善点を明らかにして次年度の計画立案に活かしていく</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>&lt;常勤職員&gt; 野沢児童館との連携を図り、事務局長の補佐役として、また、指導員やプレイングパートナーに対して指導・助言の機能を発揮して円滑な運営を推進する</p> <p>&lt;指導員&gt; 子どもたちの放課後の時間を安全・安心な環境で楽しく過ごさせる業務の推進役としての活動を充実させる</p> <p>&lt;プレイングパートナー&gt; 子どもの人権を尊重し、円滑な人間関係を築くと共に見守り者としての立場から、同等の関係ではないことを子どもたちに理解させる。</p>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

165

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
165	0	165
62	0	62
37.6	0.0	37.6

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者165名のうち、62名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子どもの不満や要望は対応されているか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、59名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「イベントを増やしてほしい」「校庭で遊ぶの好き」「友達と遊べて楽しい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	57	2	2	1
57名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「ブロック遊びなどいろいろな遊びを楽しんでいる」「めんこを作るのが好き」「友達と遊べて楽しい」「活動が飽きた」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	50	6	1	5
50名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「いつも遊んでくれたり、教えてくれたりして嬉しい」「忙しい時があるからどちらともいえない」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	54	6	0	2

54名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「チョコが出ると嬉しい」「おやつがおいしい」「みんなで食べるのが楽しい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	29	9	2	22
29名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「そういう機会がない」「言ったことがない」「恥ずかしくて意見は言えない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	49	6	1	6
49名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子どもが職員から約束ごとの説明を受けている様子が見える。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	43	14	3	2
43名が「はい」、14名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「いつもきれいで、みんなが遊べるようになって嬉しい」「片付いてないこともある」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	52	3	1	6
52名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「名前を丁寧に呼んでくれるからいい」「先生によって違う」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	3	0	2
57名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「けがをした時に絆創膏を貼ってくれた」「ケガをした時に助けてくれた」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	51	6	1	4
51名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。トラブルに対しても適切に対応していることがうかがえる。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	54	4	0	4
54名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「好きな先生がたくさんいる」などのコメントがあがっており、子ども主体の対応が実践されている様子が見える。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	33	3	2	24
33名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「大人だから守ってくれると思う」「秘密にしたいことはない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	54	4	0	4
54名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「たまに相談もしている」「たぶん先生はやってくれると思う」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	4	7	31
20名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」、31名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える工夫を進めている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	理念と行動指針を職員間で共有を図っており、保護者や子どもにも伝えている 理念と方針の共有を組織の基盤として位置づけ、年度初めの会議で方針文書を全職員に配布し、変更点や重点事項を確認している。児童指導員やプレイングパートナーなど、職種別の行動基準と目標も明示している。方針の根底には「前例に倣うのではなく、ナンバーワンではなくオンリーワンを目指す」という考えがある。また、保護者には説明会で理念を口頭で伝え、子どもには「みんなが楽しく過ごせる場所」であることを伝えている。職員には言葉遣いと人権への配慮の徹底を求め、理念を日々の支援実践へと結びつける組織風土づくりに努めている。	
	区の7つの目標の再構成と実践を通じ、支援の質向上を目指している 「子ども7つの目標」の浸透と実践を重点課題とし、研修や会議を通じて全職員が一堂に会し、課題を共有しながら支援上の留意点を確認している。今年度からは管轄を越えた交流研修も開始されている。一方で、要配慮児対応に課題が残されており、安心・安全な放課後環境の整備を再構築していく意向である。事務局長は理念を現場に根付かせるため、「7つの目標」を再構成し、より具体的で分かりやすい形で伝える工夫を進めている。今後は職員の課題意識を行動につなげ、支援の質向上と安全体制の強化を図る方針としている。	
	児童増加に伴う活動空間の確保と安全な環境づくりに努めている クラブ運営では、「時間・空間・仲間」のうち特に空間確保が喫緊の課題となっている。児童数と利用率が増加する中で、従来活用していた空き教室が少人数教育や特別教室の拡充で減少し、活動スペースの縮小を余儀なくされている。結果として、遊びや学習の自由度を制限せざる負えない状況となっている。担当部署も課題を認識しており、制度・環境整備を早急に解決することを目指している。今後は、教育と福祉の連携を深め、限られた空間でも安全で多様な活動が保障できる体制づくりを進めていく意向である。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>地域と家庭の課題を踏まえ、学童クラブと児童館の連携を深めている</p> <p>クラブでは、地域特性と生活様式の多様化により、子育て支援の在り方に複合的課題が生じていると分析している。保護者会は年2～3回開催されるが、仕事や家庭事情で関われない保護者も多い。三世帯同居家庭もある一方で、家庭支援が過度に学童へ委ねられる傾向もあり、支援の線引きの必要性を感じている。子どもへの個別対応の必要性も高まり、人的・物的整備に課題を有している。今後は、家庭・地域・学校の役割分担を明確にし、学童クラブと児童館の連携を軸に「子ども中心の支援」を実効的に展開していくことに期待したい。</p> <p>標準化と支援充実を両立し、持続可能な公設学童の運営を目指している</p> <p>区の公設学童クラブに関する課題検討委員会が通年で開催されている。要配慮児童への支援を中心課題として取り組んでいる。育成委員会とも連携し、人員加配や支援体制の整備を提言することで、現場の意見を反映した協働的な仕組みを構築している。区は学童クラブの運営標準化と要配慮児童支援の充実を重視しつつ、民間事業所の参入も進めている。クラブでは、公設学童の強みを「地域に根差した安心感と安定した運営体制」にあるとして、今後の方向性を見据えながら、学童を福祉サービスの一環として持続可能な体制にしていこうと目指している。</p> <p>子どもの権利条約を踏まえ、専門性と働きがいの両立を図っている</p>		

クラブの子どもの数は一時期ほどの増加は見られないものの、急激な減少には至らないと見込んでいる。共働きによる経済維持やキャリア形成を目的に働く家庭が増加していることが要因の一つと考えられている。育成支援の質を確保するため、区の定める「子どもの権利条約」を踏まえた職員育成や業務の標準化を進めており、今後は研修等による共通認識の形成に力を入れていく意向である。放課後児童指導員の地位向上にも注力し、処遇改善や採用促進策を展開することで、働きがいと専門性を両立できる職場環境の整備を進めている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

### カテゴリ3の講評

#### 全職員に権利擁護意識の浸透を図り、実践に努めている

子どもの権利擁護を支援の根幹に据え、全職員が理解を深め、実践に努めている。区が提示する「4つの基本」(話を聞く・意見を表明する・差別を受けない等)を活用し、子どもが安心して意見を表明できる環境づくりを推進している。週1回の職員会議では児童館職員とクラブの職員が情報共有を行い、困りごとが寄せられた場合には、即、個別に対応している。今後は若手職員への権利擁護研修を体系化し、初任段階からの意識定着を図っていくことを目指している。

#### 初期対応の迅速化と丁寧な説明により、信頼関係の強化を図っている

保護者からの苦情対応では、「信頼関係の維持」と「初期対応の迅速化」を柱にしている。育成方針に関する要望・苦情はほとんど見られないが、子ども対応に関する問い合わせや体制確認の要望が寄せられた際には、文書回答を含む誠実な対応を行っている。子ども同士のトラブルでは、発生日に両家庭へ説明し、その日のうちに解決を図っている。初期対応を最優先とし、謝罪・事実整理・再発防止策を迅速に実施している。こうした丁寧な対応の積み重ねが、保護者との信頼関係を支える基盤となっている。

#### 全職員で身体拘束のリスクについて認識し、対応方針の共有を進めている

児童への身体的介入をめぐる判断と説明責任を重視し、虐待と誤解されかねない事案への対応を慎重に行っている。子どもへの身体拘束は、状況によっては虐待と見なされる可能性があるとの認識を全職員で共有しつつ、本人および他者の安全確保を最優先に対応している。現在、対応基準と記録・説明体制の整備を進めており、学童クラブ職員向け行動規範の作成をプロジェクトチームで検討している。今後は研修や各会議体において見直しを図り、倫理的実践の定着を図る方針である。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>教育委員会と児童課の連携を深め、全区的な安全体制の構築を進めている</p> <p>学校と連携しながらリスクマネジメント体制を整備しているが、特に夏休み期間の災害対応が大きな課題となっている。通常は学校と合同で避難訓練を実施しているが、クラブ単位での事業継続計画(BCP)の策定が必要と認識している。大災害時は通信手段の有無に応じて対応を区分し、通信可能時は一斉連絡で保護者へ所在を通知し、通信途絶時は保護者到着まで子どもを保護する体制を取ることにしている。今後は、教育委員会と児童課との連携を深め、子どもの安全を最優先にした組織横断的対応と全区的な事業継続体制の確立に期待したい。</p> <p>公設学童の持続的運営に向け人材育成体系の整備を進めている</p> <p>運営における人材確保を重要リスクの一つとして位置づけている。特に、指導員の社会的地位の向上と専門性の確立が課題であり、給与水準の改善や資格制度の整備が必要としている。公設学童クラブの特性から、現在は児童指導員任用資格に加えて福祉分野の専門職採用の必要性を感じている。背景には、学童クラブが福祉サービスへと再定義され、障害児支援などより専門的な対応が求められるようになったことがある。今後は、教育・福祉両面の知見を併せ持つ人材育成体系を整備し、質の高い支援を持続的に展開できる基盤づくりを進めていく方針である。</p> <p>ICTシステムの改善と情報保護体制の充実に努めている</p> <p>情報保護を最優先としつつ、ICTシステムの実用性向上に向けて、学童特有の来退所管理や保護者連絡機能など、現場での運用に最適化を図っていく意向である。そのため、機能拡張やオプション導入による改善を進めている。また、通信面では誤送信防止のため、表現確認と承認の二重チェックを行うなど慎重な運営に努めている。今後は、文章作成や情報管理に関する研修をさらに強化する方針である。情報管理の安全性と現場効率の両立を図るため、ICT環境の見直しと運用ルールの明確化を進めている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ-5の講評

### 学びを実践につなぐ研修体制を整え、継続的な人材育成を行っている

研修を「受講して終わりにしない」ことを原則とし、学びを現場実践に結びつけることを重視している。受講後は係内での報告と共有を義務づけ、実践に移すことを促している。特に勤務形態の違いによる情報格差を防ぐため、振り返りの時間確保を重視している。研修テーマは「子どもの権利」や「遊びを通じた関わり方」など、学童運営の本質に基づく内容を中心としている。今後は、対面による「遊びを媒介にした支援研修」を実施するとともに、オンライン研修を活用するなどして、時間や場所にとらわれず継続的に学べる体制を整える方針である。

### コミュニケーションを基盤にして、職員間で支援方針の共有と連携を深めている

チームワークの基盤を「コミュニケーション」に置き、相互理解の促進を重視している。職員が気軽に話し合える雰囲気づくりを大切に、「とにかく話しましょう」という合言葉のもとに、信頼関係と情報共有を深めている。毎日のミーティングでは前日の出来事や当日のシフト上の留意点を共有し、支援方針を統一している。この仕組みは職員からも高く評価され、現場の一体感を支える要となっている。繁忙期には話し合いの時間確保が難しい場面もあるが、平時には子どもの様子や支援方針を丁寧に共有し、学びの蓄積を図っている。

### 採用プロセスを工夫するとともに、正規社員への採用をサポートしている

社会的課題となっている人手不足が事業運営に影響を与えており、特に会計年度職員を含めた全体的な人員確保が課題となっている。そのため、採用プロセスの効率化と業務内容の「見える化」の必要性を感じている。採用においては、誠実さに加え、柔軟で前向きに対応できる「臨機応変さ」も重要な資質と位置づけている。会計年度職員へは、正規職員への採用に向けて、作文添削や事務局長による面接練習を行い、自信を持って臨めるよう丁寧なサポートを実施している。今後は、採用・育成・定着を一体的に進め、持続可能な人材基盤の確立を目指している。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<b>【課題・目標】</b> 人権を尊重した職員の言葉遣いについて、さらなる改善を図る。	
<b>【取り組み】</b> 職員間での言葉かけについて、相互に助言や指摘ができる環境づくりを行った。	
<b>【取り組みの結果】</b> 冷静な対応をするため、職員間の協力関係や関係性の改善を図ることで、丁寧かつ適切な言葉遣いが職場全体に浸透した。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 職員の言葉遣いを「信頼と安全の基盤」と捉え、全職員が共通認識のもとで取り組んでいる。職員同士が互いの発言に注意を払い、気づきがあれば助言や指摘が行える環境としている。必要に応じて事務局長が即時フォローする体制を整えており、「全員が区の一員」としての意識共有を強化することができている。今年度は情報共有の透明化と意見交換の場を重ね、新任職員も発言しやすい風通しのよい職場風土を維持している。こうした取組が、言葉遣いを軸とした支援の質向上につながっている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子ども同士によるトラブル発生時の迅速かつ適切な対応を標準化する。

【取り組み】

子どもの意見を双方から十分に聞き取るとともに、指導員の助言による納得がいく解決を当日内に完了することとした。

【取り組みの結果】

子どもが主体性を持って考え、行動や言葉による表現が豊かになるとともに、子ども同士の良い関係性の構築が進んだ。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子ども同士のトラブルを成長の機会と捉えつつ、不適切な行動に発展しないよう迅速かつ適切な介入を徹底している。発生時には双方の意見を丁寧に聞き取り、指導員が仲介して「どうすればよかったか」を子ども自身に考えさせ、和解と振り返りまで行ってから帰宅させている。配慮を要する児童には特性を踏まえた個別対応を行い、本人の言葉を尊重し、代弁している。職員が把握できる子どもの遊び場の設定や、職員間のチームワークにより、安全な環境を提供する体制強化を図ることができている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している  ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている  ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している  ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している  ○非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>区のホームページや健診時の案内を通じて、学童クラブの情報発信に努めている</p> <p>区のホームページでは、新BOP学童クラブの情報が通年で広報されている。本学童クラブでは、保護者からの見学や問い合わせに対し、個別の希望に応じて柔軟かつ丁寧に対応している。特に、小学校の就学時健診の際には、活動の流れや職員体制、イベント内容などをまとめた独自の資料を配布し、健診後に見学の機会を設けている。その後も希望があれば随時見学を受け入れており、保護者が安心して利用を検討できるよう配慮されている。こうした丁寧な対応は、保護者との信頼関係を築き、信頼性の高いサービス提供につながっている。</p> <p>活動予定や行事案内を毎月発信し、保護者と子どもに丁寧な情報共有をしている</p> <p>クラブでは、保護者と子どもそれぞれに向けた情報提供が丁寧に行われている。毎月発行される「新BOPだより」は、保護者には活動予定やお知らせを、子どもには行事の案内や活動のようすを伝える内容になっている。子ども向けのページには、ふりがなをつけたり、やさしい言葉を使ったり、季節のイラストを入れたりして、子どもが楽しく読めるように工夫されている。こうした取り組みにより、子ども自身が活動に関心を持ち、安心して通えるようになっていくことがうかがえる。保護者にとっても、日々の様子がわかりやすく伝わる内容となっている。</p> <p>新BOPだよりや連絡協議会を通じて、区や学校、関係者に活動状況を伝えている</p> <p>クラブでは、所管の区役所の担当部署に「新BOPだより」を送付し、定期的に情報共有を行っている。また、年2回開催される新BOP連絡協議会においては、学校関係者や地域の関係団体に対して活動状況等の情報提供を行っている。協議会には、民設民営学童クラブを運営する保育園の代表者も委員として参加している。近隣の保育所や幼稚園への「新BOPだより」の配布は現在行っていないが、今後は配布を検討しているとのことである。就学前の保護者に早期に情報が届くことで、学童クラブへの理解が深まり、安心して利用につながることを期待される。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入会説明会でサービス内容を丁寧に説明し、保護者の理解を深めている</p> <p>クラブでは入会説明会を3月に実施し、サービス内容を丁寧に説明している。配布される「新BOP学童クラブのしおり」には、新BOP、育成日・時間、間食、イベント、持ち物、お弁当、帰宅、登退所システム、急病・事故、保険、安全、自立、緊急対応など、保護者が安心して利用できるような情報が詳しく書かれている。説明会では質疑応答の時間もあり、保護者の意見を聞いて応答・記録し、必要に応じて個別対応も行っている。欠席者には別日で説明を行うなど、すべての保護者にきちんと説明する姿勢が見られ、理解を得るための工夫がされている。</p> <p>初期対応を丁寧にいき、子どもが安心して学童生活を始められるよう支援している</p> <p>入会前に児童台帳やアレルギー調査票等の書類を提出してもらい、申請書類を含めて職員が内容を確認して子どもの様子を把握している。障害のある子どもについては、事前に保育園を訪問して生活の様子を確認し、職員間で情報共有を行い、個別支援に丁寧に取り組んでいる。利用初日や初週は、特に1年生に対して一日の流れを大きく掲示したり、部屋の使い方をグループごとに説明するなど、安心して過ごせるよう配慮している。名札の付け方や出席確認、トイレや遊具の使用などについて、3年生が1年生をサポートすることで、不安の軽減が図られている。</p> <p>3年生の保護者に個人面談を実施し、4年生以降の生活について丁寧に説明している</p> <p>17時前には、遊びの時間を終えたあとに静かな活動を取り入れ、気持ちを落ち着かせてから帰宅できるようにしている。17時以降は指導員が正門付近まで付き添い、安全な下校を見守るなど、安心できる対応がなされている。3年生の保護者には6月に個人面談を行い、4年生以降の生活やBOP・児童館の利用について説明をしている。また、3月末まで在籍した子どもには、夏休みまで昼食をとることができる「ゆるやかな支援」を行うなど、生活の連続性に配慮した取り組みが見られる。こうした支援は、子どもと保護者の不安をやわらげる効果がある。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
<p>評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
<p>評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
<p>評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p>新年度前に職員で年間育成支援計画を立て、目標や行事を整理している</p> <p>新年度前には職員が集まり、年間の育成支援計画を立てている。年間計画には「子どもの標語」や「運営目標」が記され、月ごとの目標や子ども向け行事、保護者・地域・防災に関する内容、児童館との連携行事などが一覧表で整理されている。障害のある子どもには個別支援カードを使い、安全面に配慮した育成を行っている。行動観察をもとに注意すべき点を共有し、必要に応じて支援内容を見直している。問題行動があった場合は保護者に連絡し、理解を得よう努めている。今後は、発達段階に応じた育成計画を学校とも連携して考えていくことが望まれる。</p> <p>個人記録、個別支援カードなどを活用し、子どもの様子を継続的に記録・支援している</p> <p>子どもに関する記録は、日誌、個人記録、個別支援カードなどを用いて作成されている。配慮が必要な子どもについては、児童票が提出されており、年度で育成支援記録を作成している。個別支援カードには、子どもの状況や対応方法を記載し、プレイングパートナー(PP)にも共有することで、子どもの理解を深め、適切な関わりができるよう工夫している。問題行動があった場合には記録に残し、職員間で情報を共有する体制が整えられている。また、個人面談の記録は個人記録として整理・保管されており、継続的な支援に活用されている。</p> <p>職員間の情報共有が徹底され、支援者が変わっても安定した対応が可能である</p> <p>職員間の情報共有は、日々のミーティングや月1回のロングミーティングで丁寧に行われている。毎日のミーティングでは1時間ほどかけて育成の様子を確認し、変更事項の申し送り等を行っている。内容により、1週間単位で検討することもある。月1回のロングミーティングでは、事前にレジュメを作成して配布し、イベントや児童理解の時間を設けて事例を共有している。PPも始業前や終業時に短時間のミーティングを必ず行い、支援内容を確認している。こうした取り組みにより、支援者が変わっても育成状況に変化がなく、安定した支援ができていく。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>保護者の同意を徹底し、情報共有や写真使用においても慎重に取り扱っている</b></p> <p>クラブでは、子どもの個人情報を外部和やりとりする際には、必ず保護者の同意を得るようにしている。たとえば、子ども同士のトラブルで保護者間の連絡が必要な場合には、事前に相手方の保護者に確認をとってから情報提供をしている。要配慮児童の情報についても同意を得たうえで共有している。写真の掲載については、保護者からの申し出があれば掲載を控え、許可がある場合のみ使用している。着替えやトイレの補助は同性介助を基本とし、体調不良時には別室で職員が付き添うなど、子どものプライバシーに十分配慮した支援が行われている。</p> <p><b>子どもを尊重した呼び方や柔軟な対応により、安心できる環境づくりが進められている</b></p> <p>日常の支援において、子どもを一人の人間として尊重する姿勢が見られる。呼名は男女問わず「さん」づけで行い、呼び捨てはしないよう職員間で意識されている。子どもや保護者の価値観や生活習慣にも配慮し、職員自身の考えを押しつけることなく、柔軟な対応を心がけている。暴力やいじめについては「絶対に許さない」という姿勢を繰り返し伝え、トラブルが起きそうな場面には職員を配置するなど、予防と早期対応に努めている。こうした取り組みは、子どもが安心して過ごせる環境づくりにつながっている。</p> <p><b>感情的な対応を防ぐための研修や指導が行われ、子どもの尊厳を守る姿勢が見られる</b></p> <p>職員は子どもとの関わりにおいて丁寧な対応を心がけているが、時折、子どもの乱暴な言葉に対して感情的になってしまう場面も受けられる。そのため、冷静に対応できるよう指導を行っており、アンガーマネジメントや虐待防止の研修も受講している。研修後は職場に内容を共有するなど、学びを活かす工夫もされている。けがの危険がある場合を除き、子どもを強く押さえることはしないよう職員間で確認し、子どもの尊厳を守る姿勢が見られる。必要時に介入する際は、虐待と誤認されないよう配慮と周知を行っている。今後は内部研修の充実が期待される。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 <span style="float: right;">サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5</span>
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<p>手引書や点検体制を整え、職員が安心して業務に取り組める環境づくりを進めている</p> <p>クラブでは、業務の標準化を進めるために、手引書やマニュアルを整備している。新しく採用された職員には、職種に応じた業務内容を丁寧に説明し、毎月のロングミーティングで確認と周知を行っている。PP向けにも職員が手引書を作成し、実際の支援に活用されている。また、安全対策チェックリストを用いて、毎月1回の点検を実施し、緊急時に備えている。また、事故や緊急事態発生後には、手順に沿った対応ができたか振り返りを行っている。こうした取り組みは、職員が安心して業務に取り組める環境づくりに役立っている。</p> <p>定例会議や通達対応を通じて、柔軟かつ前向きな業務改善が進められている</p> <p>実施している業務や支援が決められた手順に沿っているかどうかは、毎月のロングミーティングで確認されている。急ぎの見直しが必要な場合は、日々のミーティングでも話し合いが行われ、柔軟に対応している。区の所管課からの通達に従って新BOP運営基準が改定される際には、職員に周知され、現場での対応が行われている。前例にとらわれず、より良い業務や支援を目指して改善を重ねる姿勢が見られる。今後は、企画書や実施報告書などを整理し、職員が必要に応じて活用できるようにすることも望まれる。</p> <p>年度末の反省や保護者の意見を活かし、さらなる改善への工夫が続けられている</p> <p>クラブでは、2、3月のロングミーティングで、職員による年度末反省会が行われ、次年度の計画に活かす取り組みがされている。保護者会でも意見を聞き取り、可能な範囲で反映するよう努めている。保護者会については、開催時期を早めることで、より多くの意見を計画に取り入れやすくなるという考えもあり、今後の検討に期待したい。運営基準等の改定は所管課が行うため、現場では意見を伝える立場となるが、改定内容は職員にしっかりと周知されている。こうした流れの中で、さらなる改善を目指す工夫が継続されている。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>限られた空間を工夫し、子どもの発達や興味に応じた安心できる環境を整えている</p> <p>子ども一人ひとりの発達や生活の様子を共有しながら、安心して過ごせる環境づくりを心がけている。限られたスペースの中でも、時間帯を区切って校庭や体育館を使用し、2つのBOP室を静かな部屋(本・宿題・カードゲームなど)と活動的な部屋(ブロック系)に分けるなど、子どもの気持ちや遊び方に合わせて工夫している。人気のある遊びで密集しないように、おもちゃを移動して部屋の使い方を調整しながら、年齢や興味の違いを尊重して援助している。職員は日々の観察や声かけを通して、子どもそれぞれの成長を支える関わりも大切にしている。</p> <p>遊びの中で自然に異年齢交流が生まれ、トラブルも話し合いで解決するよう支援している</p> <p>ブロック遊びや虫取りなどを通して、学年の違う子ども同士が「同じ遊びが好きな気の合う仲間」として一緒に遊ぶ、自然な関わりが多く見られている。上級生の言葉遣いをまねる、遊び方を共有するなど、互いに刺激を受けながら関係を深めている。集団生活の中では、遊びの中での気持ちのすれ違いや自分勝手な行動によりトラブルが起きることもあるが、その際は職員が双方の気持ちを聞き取り、落ち着ける場所で話し合いながら対応している。子どもたちが自分の気持ちを言葉にし、相手を理解する経験を重ねられるよう支援を行っている。</p> <p>配慮児への支援体制を整え、集団全体が安全・安心な環境で過ごせるよう支援している</p> <p>学校の支援級が2つあるため、在籍160人余りのうち22人が支援を必要とし、マンツーマンで職員が対応している子どもも複数いる。気持ちの切り替えが難しい子には簡易テントを使ったクールダウンの場を設け、落ち着いて過ごせるよう配慮している。発作のある子どもには常に職員が付き添い、安全を確保している。配慮の必要な子どもも安心して集団生活を送れるよう個々に合わせた支援を行い、自然に他の子どもたちと関わりながら互いに理解し合う様子が見られる。子どもたちが安心して充実した時間を過ごせるよう、支援体制の充実に努めている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>室内外の遊びを工夫し、子どもの自主性と安全を両立した環境づくりを進めている</p> <p>室内ではカードゲームや読書、ブロックなど、多様な遊びを通して子どもが自分の興味に応じて過ごせるよう工夫している。限られた予算の中で、トランシーバーや消耗品の購入を優先せざるを得ない事情もあるが、遊具や教材の点検を欠かさず、安全を第一に環境整備に努めている。校庭や体育館ではボール遊びや鬼ごっこ、一輪車、芝生で虫取りや寝転がって遊ぶなど、思い思いの遊びが展開されている。職員が様子把握しながら、使用する遊具や場所を調整し、子どもの「やりたい」という気持ちを尊重しつつ、安心して活動できる場づくりがなされている。</p> <p>職員が状況に応じ支援し、遊びを通して主体的に関わる子どもたちの関係が築かれている</p> <p>遊びを通して異年齢の子どもたちが自然に関わり合えるよう、職員が仲介役となって関係づくりを支えている。特に1年生がクラブに慣れるまでの時期には、職員と一緒に遊び、ルールや遊び方を伝えながら、少しずつ子ども同士のつながりを育てている。今では子どもたちが主体的に遊びを進められるようになり、同じ遊びをしたい子ども同士が声を掛け合い、学年を越えた交流が自然に行われている。学校とは違う放課後の時間を、居心地の良い場として、自分の気の合う友達と自由に過ごしながら、さまざまな子どもと関わる機会も持つことができている。</p> <p>子どもたちの生活習慣の定着を促す支援と、安心して過ごせる環境づくりが行われている</p>			

職員数が限られる中、すべての状況を把握することは難しい面もあるが、おやつや帰宅前の集合時など、生活の節目に遊び道具の片付けを促す声かけを行い、子どもたちが自分の役割を意識できるようにしている。おやつ前の手洗いをはじめ、遊びや日常の中で基本的な生活習慣が身につくよう丁寧な関わりが見られる。また、一日の流れや遊べる場所を掲示し、見通しを持って安心して過ごせるよう環境づくりにも工夫がされている。職員間で課題を共有し、ミーティングを通じて遊びの環境改善策を検討するなど、継続的な取り組みも行われている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>行事の内容に職員の創意工夫が活かされ、子どもの興味を引き出す活動が展開されている</p> <p>子どもが興味を持ち、自ら参加できるよう、毎月イベントを企画・実施している。会計年度任用職員一人ひとりが得意分野を活かしてアイデアを出し、人気企画や工作が続かないよう工夫しながら、4月の段階で年間のおおまかな予定を立てている。夏休みは体育館が工事で使えず熱中症対策のため主に室内活動となったが、長い1日を飽きずに過ごせるよう職員が一人1企画を担当し、約1か月で20種類ほどのイベントを実施した。ゲームや工作、水遊びなど多彩な内容で、自由に選んで楽しめるようにしたこと、その後の遊びにも繋がる良い機会となっている。</p> <p>児童館まつりを通し、子どもが活動を楽しみ主体的に取り組める環境が整えられている</p> <p>児童館まつり「えんにち」は、地域団体の支えによる大イベントであり、クラブではゲーム、手作りの店、ステージ発表に子どもスタッフを募り参加する機会を設けている。出店は職員企画を子どもたちが意見を出し合いながら内容を深め準備し、ステージでは子どもが主体的に考え作り上げたダンスを披露した。41人の子どもが参加し、2ヶ月かけて練習や担当分け、製作を行い、低学年でも積極的に参加できるよう支援した。当日は子どもたちも張り切って楽しみながら参加でき、振り返りでは次年度、子どもが企画から関わる内容の充実も検討されている。</p> <p>行事の実施について保護者と連携し、子どもが楽しみ成長できる環境づくりを進めている</p> <p>行事への子どもの意欲的参加には、保護者の理解と協力が不可欠である。夏休みの水遊びや児童館まつりに向け、新BOPだよりや個別の募集案内で参加方法や時間、持ち物などを伝え、家庭での準備や安全管理への協力を得ている。特にPTA会長が学童クラブ在籍児の保護者であることから、学校内での新BOP活動の認知度が高まり、地域全体との協力的な関係づくりも進められている。子どもが安心して参加できる環境を保護者と共につくり、子どもが行事を楽しむことや成長するなどの効果が生まれ、情報共有を通じた関係性も深まりつつある。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
◎あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの「やりたい」という気持ちを尊重し、安全に楽しく過ごせる環境を整えている</p> <p>子どもが「これで遊びたい」と希望する遊びをできる限り取り入れ、毎日楽しみに通えるよう支援している。外遊びを好む子どもが多いため、職員は安全面に配慮しつつ、長く遊べるよう時間調整を行っている。校庭での遊びの調整やボール出し、死角対策などの準備は担当職員が中心となり、担当者が他の対応にあたる際には他職員が補い合うなど、連携体制も整っている。来所後すぐに遊びに取り組む姿が見られ、子どもが主体的に過ごせる環境が確保されている。今後は新しい遊具の導入時に、遊び方を伝えられるよう工夫を進める予定である。</p> <p>生活の見通しと環境の工夫により、子どもが安心して活動できるよう支援している</p> <p>子どもが主体的に過ごせるよう、クラブでは生活の流れを掲示物で知らせ、活動の見通しが持てるよう工夫している。おやつや帰宅時には個別の声かけを行い、変更がある場合はトランシーバーで職員間の情報共有を徹底し、必要に応じて子どもにも伝えている。室内は遊びの内容に応じてBOP室1・2を使い分け、夕方には安全に帰宅できるよう、気持ちを落ち着けて過ごせるよう配慮している。環境設定や遊具の選定についても職員ミーティングで検討しており、子どもが快適に過ごせる空間づくりが進められている。</p> <p>BOP児童を含めすべての子どもたちを職員が見守り、異年齢交流も自然に育まれている</p> <p>放課後子供教室の機能を持つBOPと学童クラブが一体型で運営されており、児童の区分けをせずに行事や日常の遊びを共に楽しむ姿が見られる。特に4年生以上のBOP利用者が多く、異年齢での関わりが自然に生まれている。集団遊びの中で年齢を越えた交流が生まれ、子どもたちの社会性や主体性の成長につながっている。このような関わりは、学童クラブの支援目標の達成にも良い効果をもたらしている。職員は全員で子どもたちを見守る体制をとれるよう情報共有を行っており、誰もが安心して活動に参加できる環境が整っている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校と環境面や子どもの様子を共有し、安心して過ごせるより良い支援につなげている</p> <p>学校の校庭や体育館、教室の借用や学校行事に関しては、主に副校長を窓口として継続的に連携している。特に夏休み中の体育館工事の情報共有や特別教室の使用調整など、円滑な運営のために多くの協力を得ている。新BOP運営協議会にも出席を依頼し、年間計画や活動状況を丁寧に伝えることで理解を深めている。クラスおよび特別支援学級の担任とは日常的に情報を共有し、気になる子どもについては随時連絡を取り合っている。良好な連携により、少人数の子どもと密に関わる学校の担任からの情報を日々の支援に生かしている。</p> <p>不登校や医療的ケアなどの課題のある子どもについて、学校と連携し支援を行っている</p> <p>一学期には不登校傾向のある子どもが在籍しており、保護者や学校と連絡を取り合いながら情報を共有し、子どもの気持ちに寄り添った支援を行った経緯がある。現在は民間学童クラブに移行し、迎えが来るまではBOP室で過ごしているため、引き続き様子を見守っている。また、医療的ケアを要する子どもが在籍しており、学校での体調によりクラブへの出席が難しい場合もあるため、養護教諭と頻りに連絡を取り、安全に過ごせるよう配慮している。学校や関係機関と連携し、子どもが安心して過ごせる体制づくりを継続している。</p> <p>巡回支援員の助言により、配慮児についての職員の関わり方、支援の幅が広がりにつつある</p> <p>配慮が必要な子どもへの支援については、2つの支援学級があることからマンツーマン対応が必要な児童が多く、また経験の浅い職員も多いため、日々その対応に苦慮している。巡回相談や育成訪問の助言を受けてきたが、今年度から区の伴走型支援の考えに基づき、継続的に専門職の巡回支援員が派遣されるシステムが作られた。巡回支援員はこの施設の重要性を認識して度々来訪し、一人ひとりへの対応方法を具体的に伝えることで支援の幅が広がってきている。また、職員間で日々共有することで、支援力向上や支援体制の具体的な仕組みが整えられつつある。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>安全面や衛生面に配慮し、おやつを食べたいという気持ちを大事にして支援している</p> <p>静かな遊びの部屋の一部の机をおやつ場所として使用し、通常は帰宅時間に合わせて順に呼び、1年生だけの時間や1日育成日には学年ごとにグループ分けして提供している。おやつ担当職員が配膳や見守りを行い、次に食べる子どもをトランシーバーで呼ぶなど連携し、プレイングパートナーが机拭きや清掃、衛生管理を分担して安全に配慮している。紙バックのたたみ方やごみの分別などの指導も行っている。子どもが自分でおやつを選び、無理に食べさせることはせずに食べたい気持ちを尊重し、楽しい時間となるよう心掛けて支援している。</p> <p>安全に楽しく食べられるメニューを工夫し、帰宅時間を考慮しておやつを提供している</p> <p>子どもの帰宅時間を考慮し、できる限り帰宅前におやつを提供するよう個々に合わせた対応を行っている。メニューは区の契約業者から週1回納品され、注文数は在籍数の7割に調整することで余剰を出さず衛生的に提供している。甘いもの・塩味のバランスを考え3品を基本に、週1回はその日に食べきる調理品も届き、多様なものが提供され、子どもたちの楽しみにつながっている。毎月提出するアンケートでは、団子の串など安全面や子どもの反応に応じて控えてほしい品物の要望も出されており、子どもの満足度と安全の両面に配慮して提供されている。</p> <p>保護者と連携し、食物アレルギーに十分配慮して誤食防止に努めた環境を整えている</p> <p>食物アレルギーのある子どもが安心しておやつを楽しめるよう、アレルギー対応マニュアルに沿って入会時に保護者と面談を行い、個別の対応を確認している。小麦などの特定原材料に反応する子どもには特別食を用意し、メニューは毎月保護者と共有している。毎日のミーティングで成分や提供方法を確認し、配膳時には常勤職員と指導員の二重確認を行っている。おやつはほかの子どもとは別の場所で職員が見守りながら提供し、誤食防止に努めている。安全面に十分配慮しながら、子どもが安心して過ごせるおやつ時間の環境づくりに取り組んでいる。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>体調や様子の変化に気づき、声かけや習慣づけで安全意識を高めている</b> 入室時に子どもの顔色や様子を観察し、体調の変化に早く気づけるよう心がけ、職員間で情報を共有している。校庭遊びに出る前には、頭のけがや少しでも体調が悪い時はすぐ知らせるよう毎回伝え、帰宅時には身を守るための行動や事故防止の声かけを行うなど、日常の中で安全意識の向上につなげている。遊びから戻る際やおやつ前の手洗い・うがいを習慣化し、感染予防にも努めている。17時以降は静かな遊びを取り入れ、落ち着いた気持ちで帰宅できるよう配慮し、日々の活動を通して健康と安全を意識できる環境づくりを大切にしている。</p> <p><b>職員研修と子どもへの健康教育を通して、日常生活での健康・衛生意識を高めている</b> 新任職員が多い中で、食物アレルギーやノロウイルス対応、けがやてんかん発作時の対応などについて、マニュアルに基づく内部研修を実施し、知識と判断力を高めている。子ども向けには、保健所から借りた手洗いチェッカーを活用し、児童課の看護師から具体的な話を聞くなど、手洗いの大切さを実感して学べる機会を計画している。手洗い場がBOP室と違うフロアにあるため、その動線や職員間の意識差などの課題はあるが、継続的に取り組み改善を進めている。職員同士のチームワークを生かし、健康・衛生面での支援力向上につなげている。</p> <p><b>看護師配置と職員の連携で、医療的ケア児が安心して過ごせる環境を整えている</b> 医療的ケアが必要な子どもには、区の契約看護師が、おやつや1日育成の昼食時に配置され、血糖値測定やインスリン投与など専門的対応を行っている。看護師不在の遊び時間には、常勤職員が指示書に基づき、必要に応じて飴やジュースで血糖値を調整するなどの支援も行っている。学校や養護教諭とも日常的に情報を共有し、毎日、食べたおやつやの量や状況などを保護者に電話で伝えている。アラーム対応や見守りの分担を通して、職員全体で理解と協力体制を築き、子どもや保護者の安心につながる、安全な医療的ケア児の受け入れに努めている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>年2回の保護者会で一言ずつ発言する機会を設け、交流と連帯感の醸成を図っている</b> クラブでは、保護者会を年2回、1学期と3学期に開催している。保護者には一言ずつ話してもらう時間を設け、保護者同士の交流や連帯感を築ききっかけとしている。保護者対応は基本的に常勤職員が行い、状況に応じて事務局長が対応することもある。職員は保護者の話を丁寧に聞き、言いたいことを的確に受け止めるよう努めている。連絡アプリでは子どもの良いところも積極的に伝え、保護者との信頼関係を深める工夫がされている。こうした日々の積み重ねが、安心して預けられる場としての信頼につながっている。</p> <p><b>発達や気づきについて保護者に伝え、共通認識を持てるよう努めている</b> クラブでは、お迎えの際に保護者に部屋の入口まで来てもらい、子どもの様子を直接見てもらえるようにしている。子どもの発達や日々の様子について気づいた点を伝え、悩みを聞き取るなど情報交換を行い、保護者と共通認識を持てるよう努めている。お迎え以外の保護者には、行事の際に声掛けをするよう心掛けている。また、気になることがあればその日のうちに保護者へ伝えるようにしており、個人面談では困りごとなどを丁寧に聞き取っている。こうした取り組みは、保護者との共通認識を得るための重要な支援であるといえる。</p> <p><b>柔軟な育成時間と丁寧な対応により、保護者の仕事と子育ての両立を支えている</b> 育成時間の延長については、保護者の就労状況に応じて、月ぎめ・日ぎめの利用方法を選択できるようになっており、最大で19時まで延長可能な体制が整えられている。毎日7人から15人の利用があり、保護者の個々の事情に寄り添った柔軟な対応がなされている。子どもの出欠確認は保護者連絡アプリを通じて行っているが、出席予定の子どもが来所しない場合には保護者に連絡し、必要に応じて職員が捜索にあたるなど、安全面への配慮も徹底されている。こうした取り組みにより、保護者が安心して仕事と子育てを両立できる環境づくりが進められている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>児童館主催の「えんにち」に参加し、地域とふれあう貴重な機会となっている</b></p> <p>児童館主催の「えんにち」には、児童館内の4つの新BOPが参加し、子どもたちや保護者、地域ボランティアと一緒に活動している。クラブからは40人ほどの子どもたちがスタッフとして出し物を3つ担当し、ダンスなどの企画を自分たちで考えて練習を重ね、ステージ発表も行っている。この行事は小学校を会場にしておこなわれ、新BOPののぼりを立てて活動をPRするなど、地域の方々に活動を知ってもらい良い機会となっている。地域の人とふれあうことで、子どもたちの社会性や自信が育まれており、今後も継続的な参加が望まれる。</p> <p><b>クラブが児童館や地域団体と連携し、子どもの交流と地域とのつながりを促進している</b></p> <p>クラブでは、児童館の職員と協力して「移動児童館」を実施し、ドッジボールなどの活動を通じて子どもたちの交流を促している。児童館は、子どもが4年生以降に地域で利用できる居場所の一つとされており、早い段階からつながりを持つことは有益である。また、遊び場開放運営委員会と連携し、校庭での凧揚げイベントの共催も計画されている。こうした地域団体との協働は、子どもたちが地域の中で安心して過ごし、さまざまな人と関わる経験を積む貴重な機会となる。今後も、子どもたちの生活の幅を広げる取り組みの継続が期待される。</p> <p><b>制約の中でも地域と連携し、子どもの安心と成長を支える工夫が続けられている</b></p> <p>クラブは、在籍人数や要配慮児童の多さ、感染症対策など、制約の多い中でも、児童館や学校関係団体と連携しながら、子どもたちのための活動を工夫して実施している。図書館との協働や外部人材の受け入れなど、過去の取り組みからも、子どもたちの生活の幅を広げようとする意欲が感じられる。現在は制限がある中でも、地域資源とのつながりを大切にし、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに尽力していることは、非常に意義深いと考えられる。今後も、状況に応じた柔軟な工夫と、地域との温かなつながりが継続されることを期待する。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員の体調面にも気を配りながら、組織全体の調和を高めている	
内容①	チームワーク形成の基盤を日々のコミュニケーションに置き、事務局長が全職員と関わる姿勢を徹底している。全指導員に毎日必ず声をかけ、体調や表情の変化に気づくことを重視している。職員の個性や状況に応じて、親しみある言葉と適切な指導を使い分け、組織全体の調和を図っている。近年は異動によるメンタルケアにも注力し、職員の状況に応じた心理的負担を軽減する声かけを行うなど、個性の高い支援も実践している。こうした日常的な関わりの積み重ねが、安心して働ける職場環境と安定したチームワークの維持につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	日々の記録や定期的なミーティングにより、職員間で子どもの状況を丁寧に共有している	
内容②	クラブでは、子どもの状況を職員間で深く情報共有する体制が整えられている。日誌や個人記録、個別支援カードを活用している。個別支援カードはプレイングパートナー(PP)にも共有され、適切な関わりに活かされている。日々のミーティングでは1時間程かけて育成状況を確認し、申し送りを丁寧に実施している。月1回のロングミーティングでは事例共有の時間も設け、理解を深めている。PPも始業前後に短時間の確認を行っており、支援内容を共有している。支援者が交代しても育成状況に変化がなく、安定した支援が継続できている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	子どもの意欲を尊重し、職員の創意工夫で多彩な行事・イベントを計画的に行っている	
内容③	運営目標である「様々な体験や交流を通し、自主性・社会性・コミュニケーション力を育む機会の充実」に基づき、計画的に、子どもが楽しめる多種多様な行事・イベントを実施している。毎月、職員が特技やアイデアを生かして企画し、工作やスポーツ、集団ゲーム、伝承遊びなど幅広い内容を展開している。子どもの「やりたい」という気持ちを大切に、自発的な参加を促し、毎回の振り返りを通して内容を見直しながら工夫を重ねている。地域の児童館まつり「えんにち」では、子どもスタッフが出店やステージ発表に参加し、主体的な活動を支援している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員一人ひとりの個性を活かしながら、職員各自が求められる役割を果たし、協働できる組織風土を目指している
	内容	職員一人ひとりの個性を尊重し、それを活かしたチームづくりを推進している。今年度からは「個性を育てる取り組み」を開始し、日常の声かけや対話を通じて信頼関係を育み、相互理解を深めている。この活動は、指導員としての基本姿勢を学ぶ機会でもあり、区が掲げる「七つの目標」に沿って各職員の役割を明確化することを目的としている。事務局長の教育現場での経験を活用し、理念を福祉現場に融合させた独自の試みとなっている。今後も、個々の特性を活かしながら協働できる職場風土の定着を目指している。
2	タイトル	児童館、新BOPや地域団体と協働し、達成感を得られるイベントを通じ子どもの主体性を育み、地域コミュニティの創造に努めている
	内容	クラブでは、児童館との連携を活かした「移動児童館」や「えんにち」など、地域資源を活用した創造的な取組が展開されている。特に「えんにち」は、クラブのある小学校で開催され、近隣の4つの新BOPの子ども・保護者・地域ボランティアが協働している。子どもが主体的に企画・準備・運営に関わり、ダンス発表などを通じて達成感を得る機会となっている。新BOPのPRや地域団体との協働も積極的で、地域交流の場として機能している。今後予定されている風揚げイベントも含め、イベントによる地域のコミュニティの創造に努めている。
3	タイトル	多様な支援ニーズに対応するための役割分担を見える化することで、職員の協力体制と課題意識の高まりにつながっている
	内容	BOP参加含め130人程が毎日を通し、個別対応が必要な子どもを含む多くの要配慮児が在籍する中、安全・安心な居場所づくりの必要性が高まっている。四職層の40数人の職員が配置され、新任職員も多いため、情報共有と業務分担の明確化が重要となる。そこで、ホワイトボードにリーダーや出席管理、おやつ、各部屋や交代制要配慮児担当などを職員名で掲示し、全体把握やフォロー、使用場所片づけなど細かな仕事内容まで一目で分かるよう工夫している。その結果、情報共有や課題意識の向上が見られ、職層を越えたチームワークが育まれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	社会的意義の発信と処遇改善で子ども支援人材が誇りを持てる環境づくりをさらに進めることに期待したい
	内容	人材確保を運営上の最重要課題として位置づけており、特に児童指導員の社会的地位向上と専門性の確立を重視している。学童クラブが福祉サービスとしての役割を担う中、障害児支援など専門的対応が求められており、教育と福祉の両面に精通した人材の育成が急務である。一方で、人手不足は学童クラブに限らず社会全体の課題となっており、会計年度職員を含めた安定的な人員確保が求められている。今後は、児童指導員という仕事の魅力や社会的意義を広く発信し、子ども支援に携わる人材が誇りを持って働ける環境づくりを進めていくことに期待したい。
2	タイトル	現在取り組んでいる業務の見える化と情報共有を基盤に、記録や連携を含むさらなる業務の構造化・標準化に期待したい
	内容	この学童クラブでは、日々のミーティングや月1回のロングミーティングを通じて、丁寧な情報共有が行われており、業務の見える化にも取り組んでいる。一方で、支援の質の向上や職員の定着、安全管理、保護者対応などが複雑化・高度化する中で、さらなる業務の構造化・標準化が今後の課題となっている。個人記録の体系化や学校との定期的な連携体制の強化、個別・集団支援の計画・振り返り・改善の記録整備、業務日誌の活用などの観点から検討を進めていくことが必要と思われる。今後の進展に期待したい。
3	タイトル	子どもたちの遊びを豊かにするおもちゃの確保に向け、地域や家庭と連携した環境整備の取り組みに期待したい
	内容	子どもが遊びを通して多様な体験を積み成長するために、おもちゃは欠かせないものであり、職員は日々の点検管理に努め、手作りおもちゃの作成にも取り組んでいる。一方、使用年数が長いものも多く、新しいおもちゃの導入が進まず、遊びがやや固定化する傾向も見られる。限られた予算で購入が難しい現状はあるが、今後は改善に向けた職員の工夫が期待される。例えば、児童館や地域施設とのおもちゃ共有、新BOPだよりを通じた家庭からの寄付依頼、運営協議会での情報共有など、地域と連携した取り組みにより、より豊かな遊び環境を実現していきたい。